

わが家の避難場所

家族がはなればなれになった時の
集合場所

●家族の連絡先 ※空欄に家族の連絡先等を記入しておきましょう。

名前	生年月日	血液型	会社や学校の連絡先	携帯電話番号

いざというときの連絡先

消防 火事・救急 **119**番 警察 事故・事件 **110**番

名称	電話番号	名称	電話番号
愛荘町役場 愛知川庁舎	0749-42-4111	東近江行政組合愛知消防署	0749-45-4119
愛荘町役場 秦荘庁舎	0749-37-2051	消防情報案内	0748-23-5599
愛荘町役場 建設・下水道課	0749-37-8052	愛知郡広域行政組合 水道事務所	0749-46-0168
愛知川警部交番	0749-42-2025	関西電力彦根営業所	0749-22-0080
秦荘東警察官駐在所	0749-37-2061	大阪ガス(株)滋賀東事務所	0120-8-94817
秦荘西警察官駐在所	0749-42-4121	NTT西日本故障・工事	113 (NTT電話) 0120-444-113 (携帯・固定電話)

災害時の連絡方法

地震や洪水などの大災害発生時は、電話利用が急激に増加し、電話がつながりにくい状況が数日間続くことがあります。このような場合は、「災害用伝言ダイヤル」・「災害用伝言板 (web171)」が開設されます。

災害用伝言ダイヤル **171**

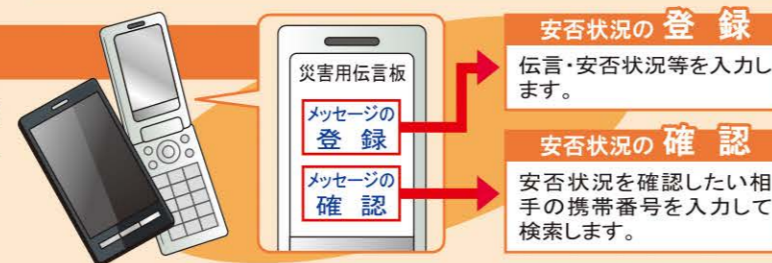
このサービスは、大規模な災害が発生した場合、「声の伝言板」(安否情報)の役割をする電話サービスです。被災地内とその他の地域の人々との間などで、伝言の登録・再生をすることができます。

体験利用日 毎月1日・15日、正月三が日、および防災週間、防災とボランティア週間



災害用伝言板サービス

携帯電話を使って被災者は安否状況の伝言を登録し、外部の人がその伝言を確認できます。携帯電話のトップメニューから「災害用伝言板」を開き、伝言の登録・確認を行います。



災害用伝言板(web171)

<https://www.web171.jp/> 左記URLへアクセスし、案内に従って操作してください。

インターネットを利用して被災者の安否確認を行う伝言板です。伝言情報の登録・閲覧が可能です。

防災



あなたと、あなたの大切な家族を守るために

ガイドブック

目次

- 防災 1・2
 - 地域ぐるみで取り組む防災・減災
 - 防災は日頃の備えが大切
 - 避難行動要支援者 ■ 非常持ち出し品の準備
- 感染症対策 2
- 地震 3～5
 - 地震が起きたとき、とるべき行動
 - 緊急地震速報を見聞きしたら… ■ 屋内の安全対策
 - 屋外の安全対策 ■ 震度と揺れの状況(震度階級表)
 - 地震による液状化現象
- 震度分布図/液状化危険度分布図 6
- 大雨・洪水 7～11
 - 大雨や洪水に関する注意報・警報
 - 台風が近づいたら気象情報に注意
 - 雨の強さと降り方 ■ 内水はん濫と外水はん濫
 - 避難情報 ■ 避難の心得 ■ 水平避難と垂直避難
 - 家庭でできる簡易水防 ■ 家屋の被害を抑える
- 土砂災害 12
 - 土砂災害の種類と前兆現象
 - 土砂災害警戒情報とは
- 洪水・土砂災害ハザードマップ 13～42
- 原子力災害 43・44
 - 原子力災害とは
 - 愛荘町への影響
 - 原子力災害時にとるべき行動
 - 屋内退避の指示が出たら
- 避難場所・避難所 45・46
 - 一時避難場所一覧
 - 拠点避難場所一覧
 - 福祉避難所一覧
 - 防災情報の入手先

私たちは、常に災害や事故など突然起こる悲惨な出来事と隣り合わせで生きています。まさに明日、その日がやってくるかもしれません。愛荘町防災ガイドブックは、『あなた自身と、あなたの大切な家族の命を守るための行動』についての情報をまとめたものです。毎日当たり前と思っている出来事や暮らし、あなた自身とあなたの大切な人を災害から守るために、この愛荘町防災ガイドブックを活用して、私たち一人ひとりができることを一緒に考えてみましょう。

地域ぐるみで取り組む防災・減災

災害発生時には、愛荘町をはじめ、警察・消防などの防災関係機関が全力をあげて対応にあたりますが、火災や道路の寸断、断水・停電など様々な被害が広い範囲で起きた場合は、対応が非常に困難な事態が予想されます。このような場合には、地域ぐるみで協力し合い、助け合うことが大切になります。地域の自主防災組織を結成して、防災知識を身につけることや、いざというときの役割分担を決めるなどして地域の防災力を高めましょう。

自助

自分の命は自分で守る



共助

自分たちの地域は自分たちで守る



公助

町や県、国、防災関係機関が住民等を援助する



住民同士が協力して地域の防災力を高めよう

防災は日頃の備えが大切

避難場所の確認や浸水地域の把握など、日頃から備えておきましょう。また、家族と避難場所や連絡方法を確認しておくことが大切です。

家族会議を開こう

災害が発生したとき、どこに避難し、どのようにして連絡を取り合うのか、家族で事前に話し合しましょう。

一人暮らしのお年寄りなどには気配りを

自分の家族だけでなく、地域全体に目を向けましょう。特に、一人暮らしのお年寄りや子ども、病気の方など避難行動要支援者の方たちには、普段から気配りが必要です。

避難場所や避難路を確認しておく

この防災ガイドブックをもとに、自分の地域の避難場所や避難ルートを確認しておきましょう。

防災訓練に参加する

災害時には、地域一体となり行動しなければならないことが増えます。日頃から顔なじみとなることが重要です。みんなで集まる機会として、防災訓練に参加しましょう。

避難行動要支援者

避難行動要支援者とは、年齢や障がいなどによって災害発生時の対応に何らかのハンデを負っている人々のことです。一般に高齢者や障がい者、乳幼児や妊産婦、日本語を十分理解できない外国人の方々などが該当します。地域で協力しあいながら、近所の高齢者、障がいのある方などの安否確認、避難場所への移動を支援しましょう。

▶高齢者・病人

- おぶって安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。

▶耳の不自由な方

- 話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

▶肢体の不自由な方(車椅子)

- 階段では2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- 介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おぶって避難する。

▶目の不自由な方

- 声をかけ情報を伝える。
- 誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持つてもらい、半歩手前をゆっくり歩く。

！非常持ち出し品の準備

いざというときに備えて、非常持ち出し品を準備しましょう。非常持ち出し品は、リュックサックなどにまとめて、いつでも持ち出せる場所に保管しておきましょう。

食料	救急・安全対策	貴重品
<input type="checkbox"/> 飲料水(1人1日2~3リットルを目安) <input type="checkbox"/> 非常食(缶詰、乾パン、レトルト食品など) <input type="checkbox"/> 携帯食(チョコレート、キャンディーなど) <input type="checkbox"/> 粉ミルクと哺乳瓶(赤ちゃんがいる場合)	<input type="checkbox"/> 常備薬(胃腸薬、かぜ薬など) <input type="checkbox"/> 包帯、ガーゼ、ばんそうこう <input type="checkbox"/> 傷薬、消毒薬 <input type="checkbox"/> 持病のある方の薬 <input type="checkbox"/> ヘルメット、防災ずきん <input type="checkbox"/> ホイッスル <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> 体温計	<input type="checkbox"/> 現金(小銭) <input type="checkbox"/> 預貯金通帳、印鑑 <input type="checkbox"/> クレジットカード類 <input type="checkbox"/> 健康保険証 <input type="checkbox"/> マイナンバーカード、免許証など(本人確認できるもの)
<p>日頃から、3日分の食料と飲料水を、非常備蓄品として常備しておきましょう。</p>		
衣類など	日用品など	
<input type="checkbox"/> 衣類(厚手の物と薄い物) <input type="checkbox"/> 下着類 <input type="checkbox"/> タオル、毛布 <input type="checkbox"/> 手袋、軍手 <input type="checkbox"/> 寝袋 <input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> ポリ袋(ビニール袋) <input type="checkbox"/> 新聞紙 <input type="checkbox"/> ろうそく、ライター <input type="checkbox"/> ナイフ、缶切り <input type="checkbox"/> ティッシュペーパー <input type="checkbox"/> ウエットティッシュ <input type="checkbox"/> 懐中電灯(予備電池) <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ(予備電池)	<input type="checkbox"/> 携帯電話(充電器・バッテリー) <input type="checkbox"/> 筆記用具(油性マジック) <input type="checkbox"/> 洗面用具 <input type="checkbox"/> メガネ <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ <input type="checkbox"/> 紙おむつ <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> 布ガムテープ
	<input type="checkbox"/> ロープ <input type="checkbox"/> 地図(ハザードマップ)	

感染症対策

感染しない・させない

新型コロナウイルスに限らず、風邪や季節性インフルエンザなどの感染症対策として、おひとりおひとりの咳エチケットや手洗いなどの実施がとても重要です。風邪症状があれば、外出を控えていただき、やむを得ず外出される場合には、マスクを着用していただくようお願いします。手洗いや咳エチケットなど、以下のような新しい注意点を参考に、感染しない・させないようにご協力ください。

また、感染症対策により避難所の受け入れ人数が制限されている場合がありますので、自宅の浸水しない階への垂直避難や、親戚や知人宅への避難など、避難所以外の避難先も検討しておいてください。

- まめに手洗い・手指消毒
- 咳エチケットの徹底
- こまめに換気(エアコン併用で室温を28℃以下に)
- 身体的距離の確保
- 「3密」の回避(密集、密接、密閉)
- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



地震が起きたとき、とるべき行動

地震発生時には、あわてずに、まず身の安全を確保しましょう。また、旅行などで海岸付近にいた際に強い揺れを感じたときは、すぐに津波が来襲することがありますので、津波警報や津波注意報の発表を待たず、ただちに高台などに避難してください。

地震発生!

土砂災害の危険が予測される地域は、**すぐ避難!**

海岸付近は津波のおそれがあるので**高台に避難!**

① 命を守る

- 「頭を保護する」「大きな家具から離れる」「丈夫な机の下に隠れる」など、落ち着いて自分の身を守る。
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する。



1~5分

揺れが収まってから行動

② 家族を守る

- 家族の安全を確認。
- 火の元を確認・初期消火。
- 足をケガしないように靴をはく。
- 必需品を手元に用意する。
- 余震に注意。



5~10分



③ 地域を守る

- 隣近所の安全を確認。
- ラジオなどで情報を確認。
- 電気のブレーカーを切る・ガスの元栓を閉める。
- 家屋倒壊などのおそれがあれば避難する。



10分~数時間後

避難生活

④ 助け合いの心で

- 協力して消火・救出活動。
- 壊れた家には入らない。
- 水・食料は備蓄でまかなう。
- 引き続き余震に注意。
- 災害情報、被害情報の収集。
- 避難所では集団生活のルールを守る。



緊急地震速報を見聞きしたら...

「緊急地震速報」は、最大震度が5弱以上と予想された場合に、震度4以上が予想される地域を対象に報道機関や防災機関からみなさんに伝えられます。この「緊急地震速報」を見聞きしてから数秒~数十秒後に強い揺れが始まりますので、この間に身を守るための行動をとる必要があります。ただし、震源域に近い地域では「緊急地震速報」が強い揺れに間に合わないことがあります。



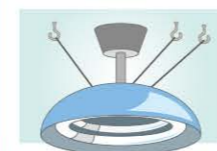
屋内の安全対策

地震で建物が倒壊しなくても、家具の転倒やガラスの飛散等により、大きなケガをしたり逃げ場をふさがれたりします。事前に家具などの固定や配置方法の工夫を行い、屋内の安全性を高めておきましょう。



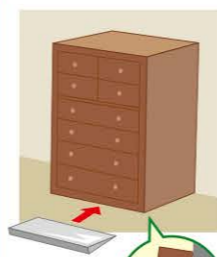
■ 収納に工夫を

- タンスや本棚などにもものを入れる場合は、重いものは下に、軽いものは上に収納するようにします。
- 本棚は隙間をブックエンドで固定するなど、なるべく空間を作らないようにしましょう。



■ 照明器具の補強を

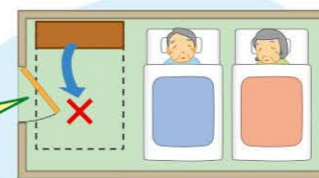
- 吊り下げ式蛍光灯は、チェーンなどで止めておきましょう。



■ 置き方に工夫を

- 家具の下部の前方に転倒防止のビニール樹脂状のものを入れ、壁にもたれ気味にします。
- 出入口や通路には、なるべく荷物を置かないようにしましょう。
- 就寝場所に家具が倒れてこないように、配置の工夫を。

地震のときに家具などが就寝部分に倒れたり、避難経路をふさぐ位置に配置されていませんか?



透明シート

■ ガラスの飛散防止を

- 割れたガラスが飛び散るのを防ぐため、ガラス飛散防止フィルムを貼りましょう。

■ 耐震金具を利用しよう



▶ 転倒防止金具

壁・柱・鴨居と家具を固定するタイプと、床などに固定するタイプがあります。家具や室内の状況によって使い分けましょう。

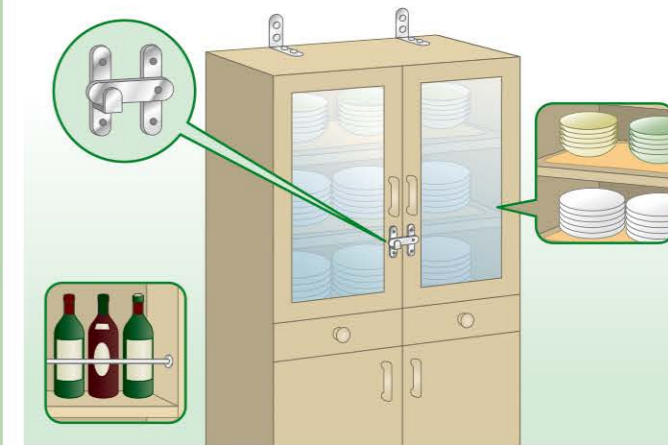


▶ 重ね留め用金具

重ねた上下の家具を固定し、上の家具の落下を防ぎます。

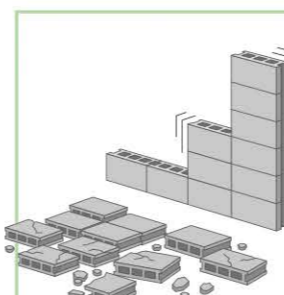
▶ 扉・引き出し開放防止金具

地震発生時に、扉・引き出しが開かないように固定します。さらに、収納物の落下を防止するために棚板にふきんを置いたり、木やアルミ棒による飛び出し防止枠をつけると安心です。



屋外の安全対策

事前に家の周りを点検し、屋外の安全性を高めておきましょう。



■ 壁・塀

- 壁や塀にひび割れなどがなく、腐ったりしていないか点検しましょう。
- ブロック塀は、地震の揺れにより崩れる可能性があるため、できれば安全な生垣などにしましょう。



■ ガスボンベ

- ガスボンベは、動かないように壁に固定しましょう。
- ガスボンベの周りには、物を置かないようにしましょう。

震度と揺れの状況(震度階級表)

震度階級	人の体感・行動	屋内の状況	屋外の状況
震度4	<ul style="list-style-type: none"> ●ほとんどの人が驚く。 ●歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。 ●眠っている人のほとんどが、目を覚ます。 	<ul style="list-style-type: none"> ●電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。 ●座りの悪い置物が、倒れることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●電線が大きく揺れる。 ●自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。
震度5弱	<ul style="list-style-type: none"> ●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。 ●座りの悪い置物の大半が倒れる。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。 ●電柱が揺れるのがわかる。 ●道路に被害が生じることがある。
震度5強	<ul style="list-style-type: none"> ●大半の人が、物につかまらなると歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが増える。 ●テレビが台から落ちることがある。 ●固定していない家具が倒れることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●窓ガラスが割れて落ちることがある。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。 ●据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。 ●自動車の運転が困難となり、停止する車もある。
震度6弱	<ul style="list-style-type: none"> ●立っていることが困難になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。 ●ドアが開かなくなることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
震度6強	<ul style="list-style-type: none"> ●立っていることができず、はわないと動くことができない。 ●揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。 ●補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
震度7		<ul style="list-style-type: none"> ●固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。 ●補強されているブロック塀も破損するものがある。

地震による液状化現象

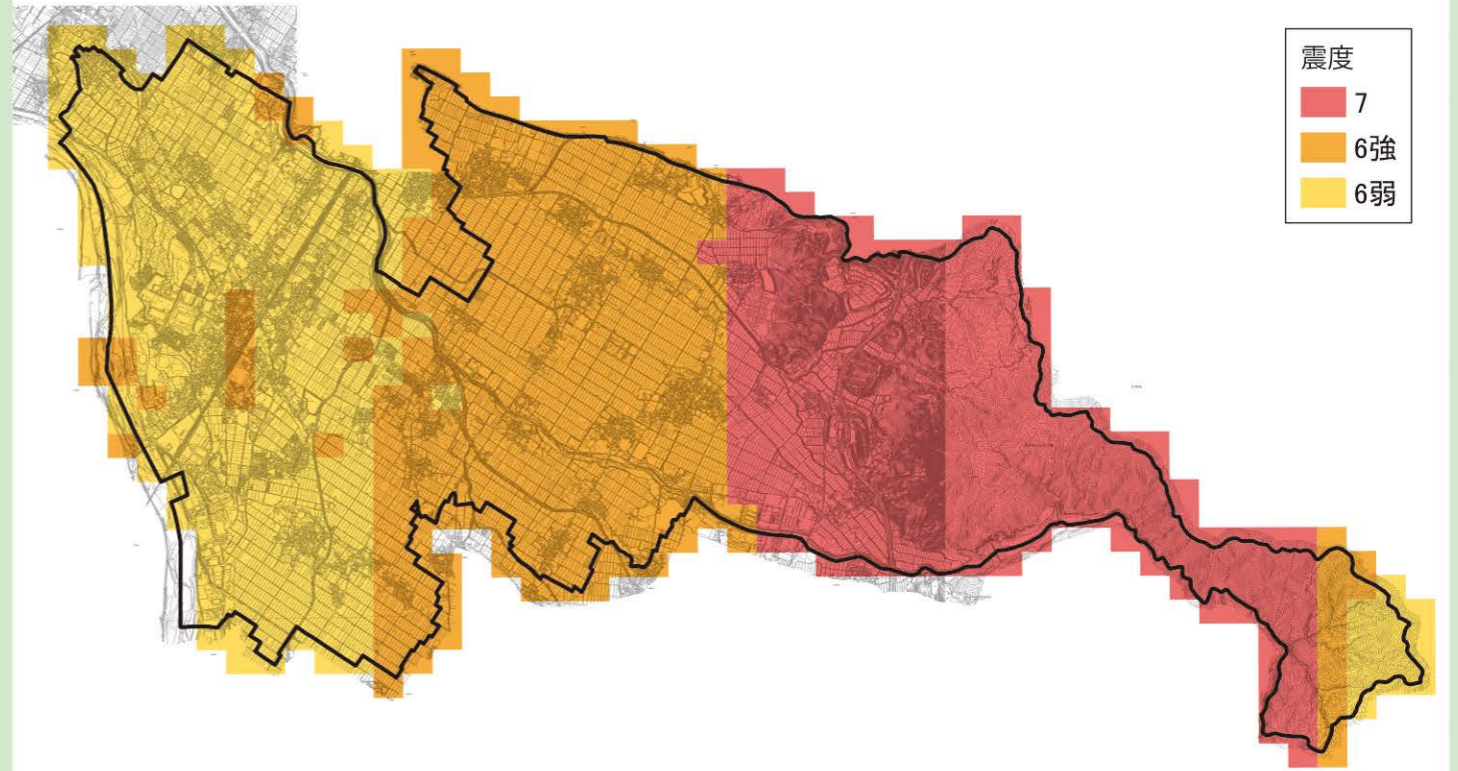
地下水位が高く、ゆるく堆積した砂地盤などが、地震により激しく揺らされると、土の粒子が水と混ざり合って一時的に液体のようにやわらかくなります。これを液状化現象といいます。



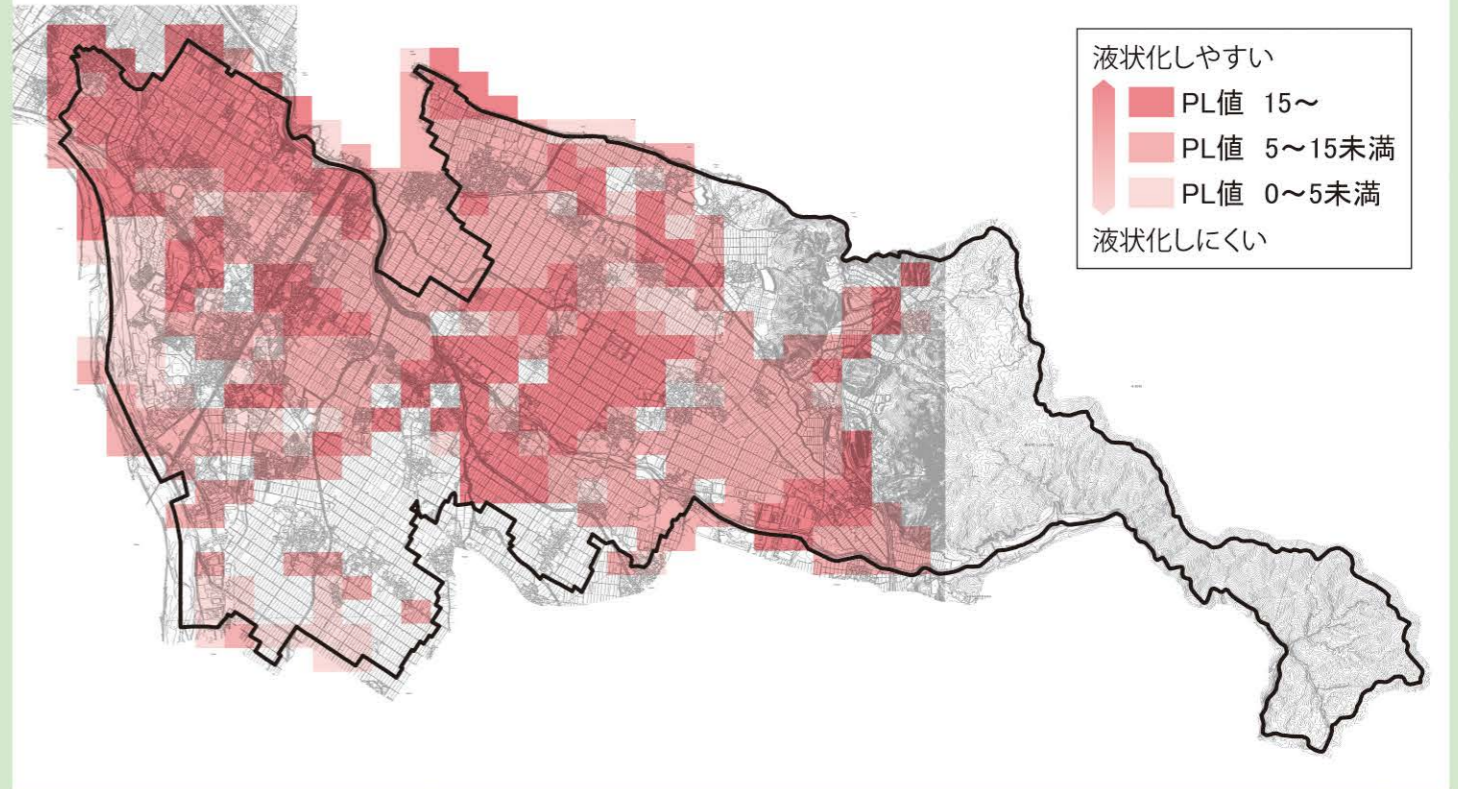
液状化が起こると発生する被害

- ① 地盤の支持力が低下することにより発生する、建物等の沈下や傾斜。
- ② 噴砂(水と砂が地中から噴き上げてくる現象)などによる被害。
- ③ 地下に埋設された水道管・ガス管・電線の損傷による、ライフラインの寸断。

震度分布図



液状化危険度分布図



このマップについて

- このマップは、平成26年に滋賀県が公表した地震被害想定による地震の最大揺れの大きさ(推定震度)、地盤液状化の最大危険度を表したものです。
- 震度分布および液状化危険度分布は、防災対策などを検討するうえで起こりうる最大クラスの地震を想定したもので、個々の施設の危険度を判定するためのものではありません。

- 想定した地震は以下の6地震です。それぞれの地震が発生した結果を重ねあわせた最大の震度を表示しています(全地震が同時発生したものではありません)。「琵琶湖西岸断層帯地震」「花折断層帯地震」「木津川断層帯地震」「鈴鹿西縁断層帯地震」「柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯地震」「南海トラフ巨大地震」

大雨や洪水に関する注意報・警報

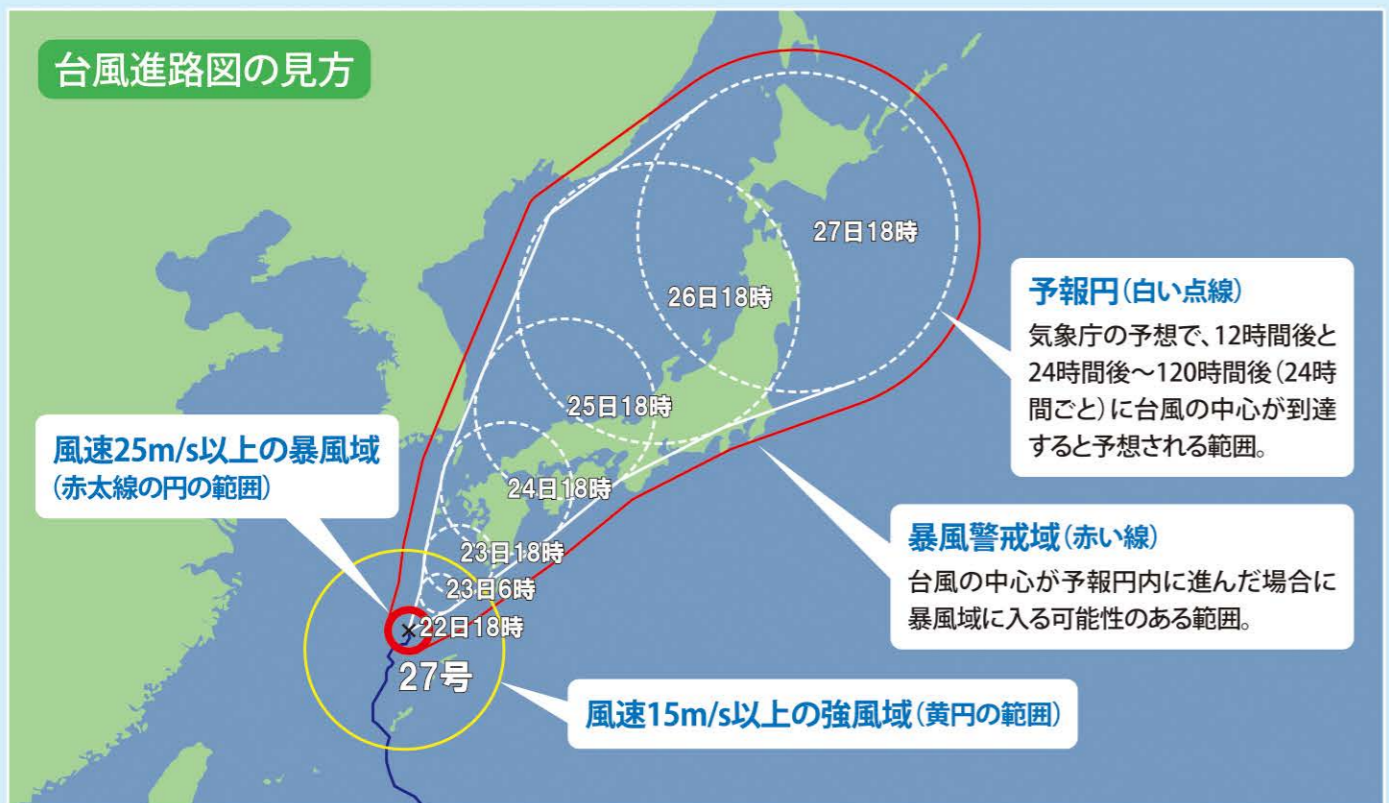
下記のような場合、気象庁から「注意報」「警報」が発表されます。さらに、警報の発表基準をはるかに超える豪雨等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、「特別警報」が発表され、最大限の警戒を呼び掛けます。※「特別警報」が発表されない場合でも、甚大な被害が発生する可能性があります。

大雨・洪水注意報	大雨・洪水警報	大雨特別警報
災害が発生するおそれがある	重大な災害が発生するおそれがある	「警報」よりもはるかに高い危険度
大雨 大雨により、浸水災害や土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。 洪水 大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水やはん濇、堤防の損傷や決壊による災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。	大雨 大雨により、重大な浸水災害や重大な土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。 洪水 大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水やはん濇、堤防の損傷や決壊による重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。	大雨 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想されるときに発表。 洪水 「洪水」は、全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表しているため、特別警報の設定はありません。

このほか、数年に一度の猛烈な雨が観測された場合には、気象台から、「記録的短時間大雨情報」が発表されます。この情報が発表された地域では、近くで災害の発生につながる事態が生じていることを意味しています。

！ 台風が近づいたら 気象情報に注意

台風はその襲来時期や規模、被害の程度などの予想が可能のため、事前の対策次第で被害を軽減することができます。台風が近づいたら、気象情報に十分注意し、適切に対応しましょう。



雨の強さと降り方

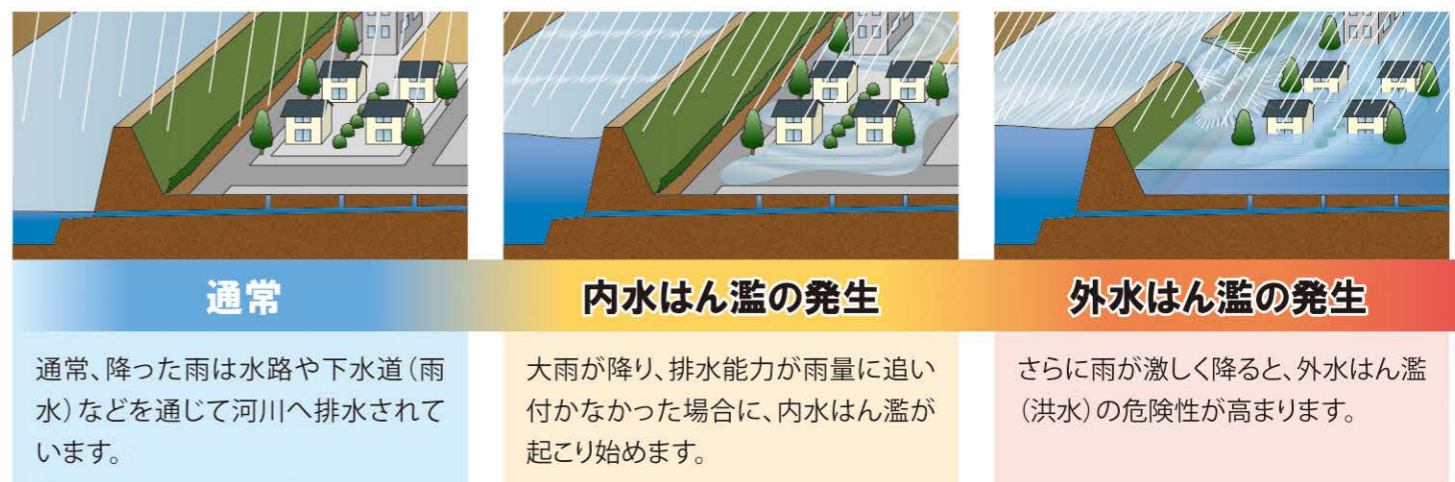
下の表は、雨の強さと降り方の目安、それに伴う災害の危険性を示したものです。普段から雨の様子に注意し、警報や避難勧告が出る前でも、危険と判断すれば自主的に避難することが大切です。

	やや強い雨 10～20mm未満	強い雨 20～30mm未満	激しい雨 30～50mm未満	非常に激しい雨 50～80mm未満	猛烈な雨 80mm以上
1時間雨量と予報用語					
人の受けるイメージ	● ザーザーと降る。	● どしゃ降り。	● バケツをひっくり返したように降る。	● 滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	● 息苦しくなるような圧迫感がある。 ● 恐怖を感じる。
人への影響と屋外の様子	● 地面からはね返りで足元がぬれる。	● 傘をさしてもぬれる。 ● 車の場合、ワイパーを速くしても見づらい。	● 道路が川のようになる。	● 傘はまったく役に立たなくなる。 ● 水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	
災害の危険性	● この程度の雨でも、長く続くときは注意が必要。	● 側溝や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれがある。 ● 小規模のがけ崩れのおそれがある。	● 山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地域では避難の準備が必要。	● 土石流が起これやすい。 ● 多くの災害が発生する。	● 雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

※表に示した雨量が同じであっても、降り始めからの総雨量の違いや、地形や地質等の違いによって被害の様子は異なることがあります。

内水はん濇と外水はん濇

洪水には、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなるにより起こるはん濇(内水はん濇)と、川の堤防が壊れたり、水が溢れたりして発生するはん濇(外水はん濇)があります。まずは、洪水の発生するしくみを理解して、避難所等まで安全に避難できるよう経路を確認しておきましょう。



その場で雨が降っていない場合でも、川の上流で降った大雨により、下流ではん濇が発生することがあります。

大雨・洪水

避難情報

●警戒レベルと避難情報

令和元年6月から、避難情報等に加えて、住民が情報の意味を直感的に理解できるよう、5段階の警戒レベルを提供し、とるべき行動が明確化されました。警戒レベルに応じて、適切な避難行動をとってください。

避難情報等 (愛荘町が発令)	警戒レベル	防災気象情報 (気象庁が発表)	とるべき行動
災害発生情報	警戒レベル5	大雨特別警報	すでに災害が発生している状況です。 この段階では安全な避難が難しい場合があります。空振りをおそれずに、レベル3・レベル4の段階で安全に避難を終えましょう。
避難指示(緊急) 避難勧告	警戒レベル4	土砂災害警戒情報	いますぐ安全な場所へ全員避難。 速やかに指定避難所に避難しましょう。指定避難所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。
避難準備・高齢者等避難開始	警戒レベル3	大雨警報	高齢者や要介護者等は避難。 高齢者、障がいのある方等、避難に時間のかかる方とその支援者は避難を開始しましょう。その他の方は、避難の準備を整えましょう。
	警戒レベル2	洪水注意報・大雨注意報等	ハザードマップなどで避難行動を確認しましょう。 災害の危険性のある区域、避難場所、避難経路、避難のタイミングを確認してください。
	警戒レベル1	早期注意情報	最新の防災気象情報などを確認しましょう。 災害への心構えを高めてください。

※今後、避難情報等の用語が国により改正される可能性があります。

●河川の水位情報

河川の水位が上昇して洪水のおそれがあるとき、各避難情報を発令します。各避難情報は、愛知川と宇曾川の水位が基準の水位に達するなどの状況から判断し、発令します。

水位の名称等		避難情報の種類	愛荘町内の水位観測所		
			愛知川 御幸橋	宇曾川 上枝	河川名 基準観測所
はん濫の発生	はん濫が発生している状態	—			基準 水位 (m)
はん濫危険水位	はん濫が起こる可能性がある水位	避難指示(緊急)	2.85	4.00	
		避難勧告	2.30	3.60	
避難判断水位	避難の目安になる水位	避難準備・ 高齢者等避難開始	1.75	2.90	
はん濫注意水位	水防団が出動する目安になる水位		1.50	2.20	
水防団待機水位	水防団が準備する目安になる水位	(発表なし)	1.00	1.40	
ふだんの水位					

情報伝達の流れ

避難情報は、町からの呼びかけのほか、テレビやラジオ、データ放送やインターネットからも発信されます。積極的に情報を収集し、早めの避難を心がけましょう。



※令和2年度に防災行政無線システムを更新しています。戸別受信機は役場で配布しています。

避難の心得

いざという時のために、日頃から避難に必要なものを整理し、家族で避難の手順について話し合っておきましょう。また災害が発生するおそれのあるときには、情報を入手して、早めの避難を心がけましょう。

	状況により、すばやく避難しましょう 避難の準備を心がけ、町からの指示があれば、素早く避難しましょう。		集団で避難しましょう 単独の行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。
	車での避難は控えてください 車は、約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は注意しましょう。		安全なルートで避難しましょう 川べり、地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。
	非常持ち出し品は最小限に 非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。		避難所では係りの人の指示に従いましょう 避難所に着いたら、住所、氏名などを報告しましょう。

水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、がけや浸水区域から離れる(水平避難)だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)するという判断も必要です。また、土砂災害の危険性がある地区では、屋内でも山と反対側に避難することも必要です。

浸水等による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、近隣建物の高層階や、自宅の2階以上へ緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討してください。

	危険な避難		危険な場所から離れる(水平避難)		高所への避難(垂直避難)
--	--------------	--	-------------------------	--	---------------------